

西之表市と防衛省との協議の場報告 (2)

第3回協議の場

【日時】令和4年4月6日(水)14時から

【場所】西之表市役所

【議題】

- ・市のまちづくり計画と令和4年度予算
- ・地域と自衛隊との連携、地域との防災の取組
- ・馬毛島基地(仮称)建設事業に係る環境影響評価準備書(案)の概要

【概要】(以下 \square 市=西之表市、 \square 防=防衛省)

「市のまちづくり計画と令和4年度予算」

\square 市: 長期振興計画、当初予算記者発表資料に基づいて説明。

\square 防: 重点施策を教えてください。

\square 市: 令和4年度は、地域力の向上・農業の振興・商工業の振興等を重点施策としている。

\square 防: 自衛隊施設の整備により、防災・危機管理の財政需要が高まる可能性があるか。

\square 市: 飛行場及び港湾施設の整備・運用に際し、安心・安全はしっかりと確保していただきたいが、航空機の訓練等による万が一の事故等が発生した場合に備えて、例えば、救急車や消防車の拡充、防災無線等の整備など、財政的な需要は高まると考えている。

\square 防: 安心・安全は最大限確保していきたいと考えている。観光業への影響、それに係る対策等が必要になると考えるか。

\square 市: 自衛隊施設の整備によるマイナスイメージがあるとすれば、それを払拭できる魅力ある事業を推進していきたい。

\square 防: 自衛隊施設の整備により、約150～200人

隊員が増加することとなるが、隊員が生活する地域周辺の行政需要の増加のため、新たに予算確保の必要が生じる可能性はあるか。

\square 市: 特に環境衛生施設関連は場所が限られており、宿舎の整備場所によっては手当が必要となる可能性がある。車両の増加等による交通施設の拡充等も必要になる可能性がある。

\square 防: 自衛隊施設の整備に伴う更なる財政負担の可能性も見受けられ、再編交付金の有効活用により、市の財政負担軽減にもつながると考えている。

\square 市: 再編交付金について、先日の省令改正の内容を説明いただきたい。

\square 防: 再編交付金の算定方法が定められた当時、FCLPの影響を考慮した算定方法ではなかったため、2本の滑走路と港湾施設を有する恒久的なFCLP施設を馬毛島に整備すること等を踏まえ、再編交付金が適切に算定されるよう、施行規則を改正した。

「地域と自衛隊との連携、地域との防災の取組」

\square 防: 資料に基づいて活動の実例等を説明。

\square 市: 隊員の居住や地域イベントの参加により、経済が活性化すると期待する声があった。

\square 市: 岳之腰は島のシンボルで、文化遺産としても貴重であること、また、小中学校跡地は体験活動や文化的活動の場として残すことを考えてほしいという市民の声もある。

一方、昨年立入りの際に提案があった、葉山漁港周辺で歴史・文化を残しながら市民が
(裏面へ続く)

自由に交流できる場をつくることについては、引き続き調整させていただきたい。

防：旧小中学校用地を取得したいと考えており、引き続き調整させていただきたい。

「馬毛島基地（仮称）建設事業に係る環境影響評価準備書（案）の概要」

防：安心・安全の問題について、第2回協議に引き続き協議したいとの市側の要望を踏まえて、準備書の中から特に騒音、ニホンジカ、港湾施設について、概要を説明。

市：訓練区域は造成しないのか。

防：特段、造成せず、現在の自然環境の中で訓練を実施する方針である。

市：係留施設は、自衛隊の艦艇の中でも一番大きいものを使用できるとの認識でよいか。

防：「ましゅう」や「おおすみ」等、大型の艦艇が使用できる想定である。

市：事後調査とはどのようなものか。

防：予測の不確実性の程度が大きい項目について、工事中及び供用後に環境の状態を把握するために行う調査である。

市：航空機騒音について、方法書に対する市の意見として、予測地点を追加するよう要望したが、反映されているのか。

防：Lden 及び最大騒音値についてカウンター等でお示しさせていただき予定である。

市：コアエリア間をシカが自由に行き来できるとの認識でよいか。コアエリア間のうち港湾周辺はコンクリート等で舗装しないのか。

防：周縁部には移動の支障となるような構造物を設置せず、分布域の連続性を確保するため、外周フェンスの外側では、シカは自由に行き来できる。場所によっては舗装等される箇所もあるが、シカの移動への影響はない。

市：ニホンジカは、700～1,000 頭は維持されるということか。また、基地が整備されると、常に訓練等による音が生じる環境になる

と思うが、そのことによる個体数への影響はどうか。

防：生息範囲の変化で、採餌状況が変化し、植生が変化する可能性があるため、個体数推移の予測には不確実性が残る。文献等によると、シカは音に対して急速に慣れるとの報告もあり、顕著な反応を示さなくなる可能性も考えられる。しかし、不確実性が残るため、生息範囲の確保や裸地の緑化等の保全措置を講じるとともに個体数モニタリングを行う。

市：WECPNL と Lden はどのような関係か。低周波に関して、航空機騒音の環境基準相当値とは何を参考とした基準なのか。

防：準備書において騒音の程度を表す指標としては、夕方や夜間の騒音に重みをつけて評価する時間帯補正等価騒音レベル（Lden）を用いることとしている。低周波音については、規制値がないため、これまでに実施された種々の低周波音の影響に関する調査研究等で示された指標値と比較して評価している。

市：高齢者や障がい者等が騒音を感じた場合や種子島上空を航空機が飛行した場合、防衛省としてどのように対応するのか。

防：FCLP や自衛隊の訓練で、種子島上空を飛行経路とすることはない。運用開始後に騒音測定を行うなど、音の状況を確認していきたい。米側への再発防止の申入れの対応等の事例は、確認の上、今後説明していきたい。

市：漁業補償に関して検討状況はどうか。

防：港湾施設整備のための海上工事に伴い漁業への影響が一定程度見込まれることから、地元の方々が漁業経営上被る損失を適切に補償することが不可欠であり、補償額を適切に算定するため、昨年6月から調査を実施している。この調査結果に基づき、関係機関との調整も踏まえ、漁業補償額を決定していく。

※資料は、市ホームページ及び市企画課窓口
に備え付けていますのでご確認ください。